

2009.10.15

# おし国書館

No.138

発行 代表 おし国書館  
青木 和子  
松本市牧の原 104-416  
TEL 047-311-0896

ございました。

6月5日(金)、千代田区永田町の  
国会議事堂正面に建つ国立国会図  
書館を見学しました。(参加16名)

しかし定員オーバーで希望者全員  
の参加はかなわなかったため、7  
月17日(金)に二度目の見学会を企画  
しました。(参加10名)

国立国会図書館は、私たち市民  
にとって、よくわからぬ遠い  
存在に思えます。そこで見学会に  
先立ち、5月定例会で川鍋道子さ  
ん(国会図書館職員・「おし国  
書館」会員)のお話を伺いました。  
その予備知識を持って訪れたので、  
遠い存在であった国会図書館を、  
より身近に感じながら見学できた  
のだと思います。

川鍋さん、どうもありがとうございました。

## 国立国会図書館を見学して

◎6月5日(金)

安増幸子

「国立国会図書館」という名  
称と地上4階地下8階の偉大な  
建物を見て、国会関係者が優先  
的に利用する図書館、自分とは  
あまり関係のない所だと思いつ  
んでいた私は、ここが、国会に  
対する奉仕だけではなく、私達  
国民のための図書館として館内  
閲覧、参考調査・質問への回答  
国内の公共図書館や諸大学図書  
館への貸出し、インターネット

を通じて誰でも利用できるサービ  
ス機関である実態を見て驚き、そ  
の身近さに感動しました。

更に、私達国民が情報を持つこ  
とが民主主義の基本であることを  
確信して、「真理が我等を自由に  
する」という理念のもとに建てた  
先人の知恵に驚き、嬉しくなりま  
した。大学というところは、真理  
の探求を旨としていますから、欧  
米の大学だけでなく、日本のいく  
つかの大学の図書館で「真理が我  
等を自由にする」という聖書の言  
葉がモットーとされていることは  
知っていました。国立国会図書  
館にも高々と「真理が我等を自由  
にする」という文字が刻まれてい  
たのです。

人生の旅を、より豊かに、より  
幸せに歩くには、お金や財産、学  
歴や肩書き、地位などに頼らず、  
何からも自由で、何に対しても自  
由に生きる道を自分で探しながら

歩くことだろうと思います。自由に生きるためには、真理に生きる以外にはないと思います。

遠くギリシャの時代から始まった人間の真理を求めた灯は、中世の暗黒時代にも消えることはありませんでした。それが近世になると、諸学問の探求、発展、人々の「知りたいたい」という欲求が高まり、それが野火のように広がり、無知と偏見・迷妄の闇が退いて、現代は、小さかった灯が明るく輝く大きな光となって、生活は快適になり、すべての人に希望を与えてくれるようになりました。

私達は、モノだけでなく、肉体だけでなく、目に見えない心のさまざまな不自由な奴隷状態から解放されてきました。知る事によって、何かの奴隷になっっている私達人間の心は自由になり、解放されてきました。古代へブライ語の「知る」という単語は、「耕す」

「支配する」「仕える」という意味を持っていきます。

知ることは、自分を耕し、自然や社会を正しく支配し、すべてに仕える事につながるのだということを改めて知らされた一日でした。

伊藤和子

10年くらい以前、羽仁五郎氏の「国立国会図書館設立の理念」というようなお話を、新聞か雑誌で読んだ覚えがあります。それ以来、一度見学したいと思っていました。

5、6年前、上野の国際子ども図書館は見学しましたが、内容が薄いような感じでした。しかし、本館はさすがに日本の知識の最高峰として世界に誇り得る、へと言つても、私は大英図書館しか知りませんが、文化に対してケチな我が国の政府が、よ

くもめられただけのものを造らせた！と、そちらの方に感心しました。兎に角、この災害の多い国土を調べ尽くし、地震・火事等から大事な本を守るための先人の知恵と努力には頭が下がりました。地下8階から続く書庫の静さ、「百聞は一見に如かず」です。是非一度は見るべきだし、利用すべきだと思います。

本も古いものだけではなく、新刊書は一部ずつ納入の義務があるそうなので、この出版ラッシュの現代に、雑誌もマンガ本も「ヘエー!!」と驚くばかりでした。マンガの合冊はよく借り出されるそうなので、大分痛んでいました。

私の入っている古文書会のオジイチャン方も「メールで申し込んで文献を探してもらい、コピーを送ってくれるから助かるよ」と喜んでました。古文書人口は増えていますから、この手の対応事務も

相当な量になるのではないかと  
考えてしまいました。

保存の問題も大変なようで、用紙の劣化が進むと電子化が増え、そうなるに整理システムを世界共通のルールで早く決めないと、各国がバラバラでは困るとか：環境問題もそうですが、もうこれからは何でも世界的規模で考えないと駄目ですね。文化を守るといふ事の厳肅さを、重く感じました。

一辺90mの四角の建物の中をぐるりと一周し、地下8階まで降りた訳ですから、グロッキーとは相成りました。が、密度の濃い一日でした。

今回の見学は、前もって川鍋さんのお話を伺ったことが非常に良かった！彼女の話が面白かったので「ぜひ行こう！」という気にもなったし、感動もひとしおだったと思います。

牧野さんと二人で「冥土の土産

話以上だったねえ！」と、感謝感激したことでした。

宮田正宏

今から約20年位前の松戸市立図書館在任時に、研修会で行って以来の国会図書館見学でした。施設的には前と殆ど同じでしたが、当時は電算化の初期の頃で、まだ従来のカード検索用の木製ボックスがたくさんあったように思います。

市町村図書館の蔵書は広く浅く、県立は市町村が揃えられないような専門書類を中心に、そして国会図書館は出版物のすべてを揃えるのが機能・役割です。国会図書館は、国内の全出版物を納本・献本・購入で集め、後世に伝える：図書館というより、巨大な書籍倉庫です。貸し出すと粉砕する可能性があるため、館外持出し禁止、館内閲

現況統計(平成19年度)

蔵書数	総計 34,730,903点
図書	9,052,998冊 (年間受入225,345冊)
逐次刊行物(雑誌・新聞)	12,474,489点(約20万種類) (年間受入646,809点)
地図	509,205点
録音資料	615,622点
マイクロ資料	8,771,828点
光ディスク(CD-ROM,DVD-ROM等)	73,345枚
博士論文	489,446人分
文書類	291,600点

国民に対するサービス	
出納資料数	2,389,514点
レファレンス回答	636,224件
複写処理件数	1,153,802件
国会に対するサービス	
調査レファレンス回答	49,813件
貸出資料数	31,352点
複写処理件数	8,662件
行政・司法に対するサービス	
レファレンス回答	845件
貸出資料数	10,533点

図書館に対するサービス	
レファレンス回答	7,784件
貸出資料数	30,441点
年間入館者数	
東京本館	432,431人(1日平均1,544人)
関西館	61,336人(1日平均219人)
国際子ども図書館	117,807人(1日平均412人)
インターネットを通じた情報提供	
ホームページ総アクセス件数	33,184,200件(1日平均90,667件)

覧のみで、まことに不便です。

県立や市町村図書館は、収蔵庫が満杯になると、納入本と同じ量の古本や利用の少ない本を廃棄しているのが現状ですが、その点、国会図書館は、原則的に廃棄がないので、ほぼすべての本が「存在し、閲覧できるわけです。

私は、ライフワークとして松戸に関する文学資料を収集・編集しているので、何度か閲覧や複写サービスを利用してもらいました。実際には、市立図書館に無い本も、書名などがわかれば、地元の図書館・分館で予約することで、県立や他の市町村の図書館、大学等の専門図書館から相互貸借で取り寄せてもらえます。それでも無い場合には、国会図書館からの貸出しを受け、地元の図書館内での閲覧になります。

「KH748-G217」これは、私が国会図書館に献本した私家本の登録

録・請求記号です。個人的な本でも献本すれば、国会図書館の蔵書になります。

「おーい図書館15年の歩み」も献本したということなので、約一年後ぐらいに国会図書館の蔵書に登録されると思います。

島 佳枝

私は小学校半ばで地方から上京し、都内の小・中学校に通学した身なのですが、遠足や社会見学等でも国会図書館見学の機会には恵まれず今日に到りましたので、大変楽しみにして伺いました。

ビデオと実際の見学を通して、歴史や役割の概要を説明して頂きました。発足当初は帝国図書館であり、その後国民の為の中央図書館としての役割も担い、「国立国会図書館」と名を改めて今に到ったことも、今回知り

ました。

建物は威風堂々とした堅牢なコンクリート造り。高い位置にある窓にはレトロな味わいのステンドグラスがはめ込まれています。歴史を感じさせる建物の中には、最新の機材とオフィスツールが機能的にレイアウトされていて、先進的な国立図書館を実感することができました。

正面左端に設置された木製棚の引き出しには、今は懐かしい紙製の貸出カードが保存されていて、手書きの貸出記録を見ることができたのは思いがけない喜びでした。最も興味深かったのは、書物の保存状況でした。日本中の出版物が全国から届き、分類し記録して取り置くという、ため息が出るようなお話。着々とデータ化が進んでいること、貸出の人氣が高いコミック本が、紙質が劣る為に劣化が早く、頻繁に貸出に無理がある

こと、最も保存に適しているのはやはり和紙と墨に依る記録であるというお話。どれも大変面白く拝聴しました。職員の方の丁寧な案内に感謝がでした。ありがとうございました。

国立国会図書館のデータ化が進んだことで、私たちは書物の閲覧に頼るばかりではなく、インターネットを利用した検索ができるようになった。これは物凄いことで、私たちは自宅やオフィスや学びの場に居ながらにして、国会図書館の膨大な情報や知識を短時間で得ることができるようです。利用者カードを作ればインターネット検索を始められるそうなのですが、当日は時間が無く、残念でした。

未だ若者のつもりの私ですが、願わくばもっと歳の若いお子さん達が、小学生の頃に一度は見学のチャンスに恵まれることを望んで

やみません。



○7月17日(金)

浅山早智子

松戸は雨でしたが、千代田線国会議事堂前駅を外に出ると、曇り空でした。

以前にも来た事はあったのですが、あまりの広さに目を見張るものがありました。

今回は、正面から入らず、南口から入りました。警備員が二人と受付の女性が一人いて、案内の女性一人とアシスタントの男性が一人待つていてくれました。1時間半ほどかかるので、まがトイレへ。その後、近くの部屋でビデオを15分くらい見て、内部の見学に移りました。

まず、正面玄関に入った所で

端末で必要書類を検索するのですが、「私みたいのパソコンがいじれない人はダメだね」とつぶやいたら、「大丈夫ですよ。そばに係員がいますから。」と言われました。

直接書庫から取り出せた、以前の方がよかったなと思ったことではないのも不便だと思いました。それにしても、25円のコピー代は高すぎると思いましたが、人がコピーを取ってくれるので、人件費ということでした。

新館の地下8階に入れるのを楽しみにしていましたが、何の気圧の変化も感じませんでした。中庭で地上までの吹き抜けを見上げた時、そこには階段もついていて、深くもぐって来たのだなあと感じました。

地下8階の書庫で、大正時代に出版された本を何冊が見せて頂き、

